

保育談話會(承前)

— 秋期に於ける觀察 —

九月の觀察

(濱町小學校附屬幼稚園)

柴田みどり氏

自然物に就ての觀察

植物、動物、昆虫。小動物。小鳥。四季の變化、天候等に關してはその幼稚園の周圍の情況上、山手又は郊外に於ける様な自然な態度で觀察に入る事は困難で、その觀察させ度と思ふ材料を持つて來てあたえるより他の方法はないと云つてもよいのであります。

植物について

濱町公園が直ぐ近くですのでよく行きます。一週に二回又は一回は行く様にとさめてあります。しかしこの公園も今年の七月に開いたもので樹木も新しく花をつけるものもそれまでに根づかず、雜草もなく、充分な觀察の出来ない事が残念です。學校園についても場所もせまく日當りも悪くて春にも又初夏にも丹精して芽の出た鉢植のコスモス、金蓮花、蛇の目菊、その他は途中でしなびてしまひました。何しろ鉢植と云つても植木屋から土を入れて取る様な様子で充分に出来ないのも無理もないと思ひます。この秋の庭のダリヤ。コスモスの咲きみだれてゐる様子を知らないのであります。

果物について

學校や園の周圍にある木もボブラやブラタナス桐等で何にも實のなる木がなく實る秋の氣持をせめて果物屋の店頭で知るばかりであります。時々皆で買物に出かけて林檎、栗、柿などを買つて歸り部室で粘土製作の御手本にしたり致します。又人參とか大根は觀察の後こまかくきつて毛糸につないだり致して遊びます。

動物、昆虫、小鳥、について、

動物は何も飼育されて居りません。昆虫と云つたらほとんど居りません。あり、はさみむし位です。トンボは群つて屋根の上を飛びまわります。一度濱町公園へもち竿をかついで男子のみで取りに參りました。十四位取れて用意した袋に入れて大嬉びでしたが園丁に竿をもたぬ様にと禁じられましたので皆がつかり致しました。赤トンボと西洋赤トンボばかりでした。小鳥は場所や費用の關

係で鳥小屋でなく小さな箱にせきせいインコが二つがひ居りますが小鳥の習性自然の生活を知る事が出来ないもので困ります。しかし餌をやる世話は致します。

四季の變化天候

雨のふる様子、くもり空、月の満缺、雲のとび行く様など子供自身で話し合ひよく觀察してゐる様子であります。

その他特にこの幼稚園としていつでも試る事で子供等の大好きなものは川邊に行つて船をみる事です。あの大川の上を様々な船が通ふ様子。船の生活が橋の上からどんなにめづらしくながめられるでせうか。

これはその川邊の觀察の記録です。

新大橋へ

毎週一度は此の新大橋へ舟を見に行く、

今日も二十三人の有志の子供（五歳——七歳）

をつれて川に舟の觀察に來た。蒸汽船の船乗場まで來ると一人の子供が「あ先生地震よ、船の停車場がゆれてるわ」とびつくりして云ひ出した。他の子「そうぢやないよあれ波でゆれるのよ」保「そうあれねほらあのお家浮てるのよですからなみが來るとゆれるのよ」又川の水を見て、子「ずいぶん光つて居るのね水が」あれお日様が光つて居るからよ」子供同志解決する。向から大きな舟が來た、保「そうら大きな船が來た、あの舟のおばさんがほら今入つて行つたでしょ、あそこ入るとお室があるのですよ、ねんねでさるのよ、下に來たらよく見ませうね、」舟の下に來るのを眞上に行つて待つ、子「あ、疊があつたおばさん座つて居た、」子「あの大きな舟の後に赤ちやん舟がつながつて居るわほら」子「あれは三日月様の小舟だよ」自然に皆が「三日月様こんばんは銀の舟小船……」

を歌つて居る。又他の舟をさして子「あの船の煙ずいぶん出るね」保「あの煙り何がもえて居るのか知つて居る？」「あれ石炭だよ石炭がもえるところごくんだね」そう石油をもすのもあるのよあの船（魯にてこぐ舟）どうして進むの？」「あれはおぢさんが漕いでるから」子「あの煙の出る舟ずいぶん力持ね先生」保「いくつつながつて居る？ ずいぶん力持そうねさう三雙も大きな舟引て行くのね」子「あらあんなきたないどろんこのせて行くよ」子「あれたぬきの土舟作るんだ」保「あの土ほら川のきたない物お掃除したのよ」

皆橋の欄干につかまつて限りない。電車通りもこさず人道の所で見居るから危険はない。歸へつて來てからは舟の畫をかくやら見て來た物の話をする。又これ（話）も一つの樂しみである。

（九月十五日）

○

日本大學幼稚園

山田 仲子氏

私方の幼稚園は原つばの中の一けん家の様なもので御座いまして、稻や草にとり圍れ居ながらにして虫の聲聞く所、大人なら詩的なと思ひませうが、子供は、さつぱり何にも感じないらしく男の子は虫を捕つては殺したり、頸をもちで、そつと先生の衿下に入れてびつくりさせて楽しんで居ります。どうせ終る虫の命ではありますが、むごい事です。も少し虫類愛護心の養成をいたしたいものと存じます。

今日、何か話せよとの事でございましたので、先日秋の虫の觀察をしらべてまとめて見ました。

目的 秋の虫の觀察

組 學齡前の組二十三名

豫備(繪) バツタ(トノサマバツタ) イナゴ、ハタオリ、コホロギ、等の繪を擴大してかいものを保育室に貼り幼兒の氣がつくまゝにして置く

置く

御話コホロギの學校

概要或る草原に一疋の年寄のたつたコホロギがゐた。體が大きくきれいで聲が高いのでたれにも居處を知られてゐた。そして御話し好きでよく近所の者にいろ／＼御話しては自慢をしてゐた。

或る夕方いつもの通りみんなを集めて今ふは大切なことを教へて上げませうと學校を始めました。

年寄のコホロギ先生

皆さんが物を食べるには何でたべますか、

生徒 口で食べます。

先生 そんなら何でかけつこをしたりはねたりし

ますか、

生徒 足でします。

先生 その外足でどんなことをしますか、

生徒 1、體をきれいに洗ひます。

2、足と口で家(穴)を掃えます。

3、かしいコホロギ足で聞きますといひ

ました。

先生 そうです外の者は大ていは頭の側にある耳

といふもので大きくが私共は足で聞くのですとい

ひました。

小さいコホロギたちは始めて氣がついたやう

にいろ／＼に手足をまげては聞いてゐた。

先生 まだ／＼世の中にはみなさんの氣のつかない

知らないものが澤山ある私が或る時足が二本

だけで羽根のないものをみたことがある。

生徒 二本ばかりの足でどうしてあるけますか、

羽根がなくては歌ふことも出来ないでせう。

先生 私共は羽根をすり合せて歌ふが羽根のない

ものは鳥のやうに口で歌ふのです、しかし口で

より羽根で歌ふ方が歌いやすいですよ。

それから四本足であるくものも澤山ある、四本

足のあるものは大きくて怖いが私はいちばんえ

らくてつよいからいくら來ても怖くない

とえはつてゐると、柵のこはれから四本足

の牛がのそ／＼と入つて來た。すると先の自

慢はどこへやらそら來たといふが早いか一ぱ

ん先に穴のお家へかくれてしまつた。それを

見た生徒達もころげるやうに逃げ歸つた。

それからあまり自慢しなくなつた。終り

右の豫備がすんだ翌日採集に出かける。手に／＼

袋を持ち程近き電信隊の原つゞきに行く。

注意、生きたまゝ取る。小虫愛護の養成につと

める。

鳴き聲にぐつと聞き入る。飛び出したらどんな

恰好をして。どんな處へ。いじめないでそつと袋に入れませう。

どの子もく大喜びしかし上手に澤山取る子と少しも取れない子とがある。

採集種類

バッタ、イナゴ、コホロギ、カマキリ、テントムシ

採集利用は飼育する準備がないので、幼稚園に歸つてから私共もお家へ歸りますから虫さんもお家へおかへりと申して皆逃がしてやつた。中には手足をもぎむごい事をした子もあつたがそうした子に限つてよく観察してゐる様子が見えるので止める言葉に苦心した。

右の採集日より一週間経つて、

お話 大暴風雨

概要 雨の好きなもの、きらいなもの、水の中に棲むもの、草の中に棲むもの、土の中に棲む

ものなどのお話して或る時暴風雨が起り蟻はお家に水が入り蜂は巢をこはされバッタやイナゴはかくれる木の葉の下もなくつた。やがて暴風が止み日が光ると働きものの蟻は節々と家を作り蜘蛛も網を張る蜂はあちこちとよい處をさがしてゐるがバッタやいなごのみは相變らず青草を求めて暴風に洗はれた跡をなげいてゐた。

それを蛙がいましめることにより終る。

右のお話終つて直ちに左の様な問答をした。

問 此の間電信隊の原へ虫取りにゆきましたね

答 え、僕コホロギもイナゴもバッタも取つた。

僕はカマキリを押へた私もく〜と答とり〜。

問 そう澤山押へましたねイナゴやバッタの背中

はどんな色してどんな形してましたね、

以上のやうにして得た幼児の發表を大體右の二

項に分けてまとめ見ました。

習性に關した方面

歩き方 後足で跳ぶ

鳴くか否か 羽根でなく。口でなくは一人。唯一人大きいバツタを鳴くと申したのがあつた實に緻密なものにおどろき専門の書籍をひもといて見ると飛ぶ時の羽ばたきが彼等の聲で目的は自分を示す事敵を防ぐ等とかいてあつた。

巢は 乾いた草の中、何故、雨降るのがさらいだから、

棲む所は 原ばの草の中露ある處青い草の中。

好きなもの 稻、水(露のつもり)

形態に關した方面。

頭は 圓す。

腹は 青(白す)

顔は 鼻をしかめながら鼻下をのばしこんな顔

と云ふ(よくイナゴに似てゐた)

脊は 飛行船

首は 太い

色は 茶、茶の濃いもの、

目は 圓くて少し出ばつてゐる。

脚は 後が長い、前が長いと申した子が一人、

數は四本が大多數、六本が一人これは勢力の

ある子が四本と申したので大多數が四本にな

つたらしい時々こうした經驗をする事あり。

口は 親指と人差指とを二本出し上下して見せ

てこれではないよ、次に横にして動しこれだ

よと申した。

尻は あるとのみ

羽根は 飛行機

髪は 無い(大多數)角が二本ある(一人)觸角を

指す。

右二十三名のうち稍正確に緻密に觀察なしたる者

二人、(男)

その次に位する者

三人、(男)

女子にては稍發表出來しもの 二人、(女)

しかし相當わかつてゐても發表出來ぬ者もある因にこれより觀察をすゝめるのは擴大鏡にて實驗を致させることゝ思ひますがそうさせるのは少くとも動ぬやうに爪先位を切り取らねばならぬので犠牲と云ふ事がまだ了解出來ぬ幼兒に又それまですゝめる必要ありやと思ひます。

虫をもぎつた子供に限つてよく觀察してゐるらしいございます。

このしらべ後いくらかその翹でうたふこの脚で聞くのだといふのでむごさが減つたかと思はれます。

不斷こんな事をしてゐるのではありません。

○

膳眞規子氏

私は長年大阪の幼稚園に出て居りましたが、三年程前に退きまして京の嵯峨に静養中で御座いま

すが、病中に斯様な會に列る事が出來まして誠に幸と存じます。先程から御熱心な先生方の御發表を拜聽致しましたが此の有益な御話は大阪や京都の幼稚園の方々によさち土産が出來て嬉しうございます。只今私は現職ではございませぬので實際の話を上上げられません。又私の申し上げようと思つて居りました事は皆様の先程からのお話でなくなりましたので、つまらない事だけしか申されません。

自然物が周圍にあつて幼稚園の中で觀察もできるし、自然物の採收も出來るといふ様な自然の恵みある幼稚園でございますれば實に幸福で御座います。私の居りました大阪の土一升金一升と云はれる土地の狭い遊園で致してまゐつた者には誠にあうらやましい事です。とに角私の考へますのは、子供は成るべく自然界に接觸させる機會を與へ此自然界より知らず識らずの裡に何とも故なき

偉大なる教訓を得させ度と常に苦心努力をいたしましたのです。何分大阪の様に商賣の盛な土地は全く砂漠の中に住まつて居るようなものでして、江戸堀幼稚園などは以前は實に庭園は狭くて煉瓦敷ですから、しかも小學校と共同でございましたから何にも出来ないと言つてゐても仕方がありません。砂場だけは比較的大きなのを作つてありました。その上経費が尠うございました。こんな中でも努力をすれば何かは出来ます。一番興味のあつたのはものを栽培ります時で、経費がありませんから始めは植木鉢等使へません。摺鉢の古いのや、空樽や空箱に孔を開けて用ひました。土だけは大切ですから園藝家に尋ねますと、土さへ選べば出来なくはないからと腐沃土の作り方、いれ方、種蒔方を教へて下さいまして誠に嬉敷存じました。

秋には、春咲くものを種蒔きしますが、菜種など暖い時分には段々成長しますが、極寒になりま

すと戸外に出して霜にも雪にも當てます。一時は枯れた様になります。根さへありますと一月、二月、節分になりますと最早自然の恵みは不思議なもので枯れた間から芽が出てまゐりまして三月のお雛様には子供の努力したものを具へられます。小さな菜種が咲くことに何んなにか子供は興味をひきます。その興味から努力へ努力から興味へとなります。興味を覺えれば「觀察」も面白く、實に大人の驚く所まで子供が觀察をすることができて參ります。フレibel先生は「子供は大人の師なり」と仰せになりましたとほり。日本にも「負ふた子に教へられて淺瀬を渡る」と云ふ諺があります。何時も子供本位の簡單敏捷なる動き又巧みに玩具化するよきヒントを教へられましては汗顔の次第で御座います。

大阪市江戸堀幼稚園の創立當時は非常に経費が減少されまして實に貧乏でございました。仕様があ

りません。貪乏ですと、何をしようにも一番に經費が氣になります。其處で自然物を幼児教育の上に用ゐました。自然界、春夏秋冬にふれさせて居りますと慧眼の子供は何かを得るものでなかく巧みに興味を惹起してさへ遊びます。冬季に郊外へ出かけるのは寒うございますが、春になつて小川の氷溶け、草の若芽が出る、お玉じやくし、や目高は群れをなし蝶々も花から花へ。一日をゆつたりと野原で遊ばせてあげてそれで充分です。興味深き観察は充分に出來てゐます。

只今は秋で氣分の落付く時、空は澄んで來まして觀察するのによろしい。バッタイナゴは飛んで來ます。稻は實のつて案山子は立つてゐるし、鳴子がある、鳴子を聞いて雀がバット飛立つ、大人でも見てゐて面白いものですが子供には又格別でございませう。傍には大根や野菊、彼岸花、野にも七草があります。子供達の採つてまゐりました

ものは一寸見てつまらぬものでも尊うございませう。園外に出かけた翌日は誠に忙しくそれを室内に又食卓に飾つたり始末をしたり子供と先生の努力で興味深い一日を過します。一日の郊外保育は幼児の腦裡には偉大なる良き感情を與へます何分にも園外に連れ出すのは市中の事として困難です。負傷すると申し譯がありません。が、何うしても春秋には郊外に連れ出て伸んびりとお辨當も持たせて遊ばせたいものです。

先程の先生方のお話の中に幼児の殘忍性とても申ませうかヤンマの尻尾をちぎつたり、小き虫をいぢめるのは本能に因るのでございます。私の幼稚園でこんな話がございました。岐阜市の有名な昆蟲研究所長故名和靖先生（昆蟲翁）が參觀に來られました際に、木の葉でトンボせみ蝶々など作つてありましたのを感じなすつて御自分の陳列場を飾るからとて十五六枚も持つて歸られました

がその後先日のお禮にとて送つて下さいました小包を開けて見ますと昆虫の剝製、御自分で採収なすつて剝製した種々の昆虫箱に綿を敷いて硝子の蓋をしてあつて自由にとり出して観られる立派なものです。早速飾りまして子供に話しました所が一人の子供、黙つて聞いてゐましたが非常におこつた様子「無謀むぼうなことをする先生やな」と申します。これは取り違へちや大變だと思ひまして「この先生は蟲は殺しても何時迄もみることが出来るように、みんながみたい時に見られる様に斯んなになさつたので、無謀々々に殺してしまふのぢやない」と申し聞かせました。

植物を栽培つくります事も觀察上にも大層興味深き事です。最初は入園して始めてまゐりました日にみんな松の種を蒔かせます。これは福山城のある幼稚園の子供さん達が拾つて江戸堀幼稚園の子供に毎年送つて下さいますのでその松はみんな生え

ます。丁度よく裾模様に見るように芽の上に實を被て芽生えて來ましたのが幾鉢も／＼出來ます幼兒はそれは／＼喜びますお客様テーブルにつかひますし花のない時分には食卓にも用ひます。十五ヶ年位迄は大きくなりますがそれからは育ちません。煙の都だからでございます。その他にどんぐり、梧桐の實、蒔き易いものは何でも蒔きます。植物の實生から發芽次に段々と成長する順序を見せる事が興味深き事です。朝顔の種からつぼみ花、實への變化は云はなくても繰り返し／＼見させておくと大きくなつたら分つて來ます。植物の世話をして植物に愛を持ちますと花瓣一つおろそかには致しません。斯んな氣持は子供の時に養成しておきたいものでございます。アメリカに行つて居ります友人の話でございますが、近くにある公園へ、日曜日などには殊に大勢人がまゐるさうで、その中の温室にはきれいな花が澤山ありま

すが、子供さへその花一つもとらないので感心してその友達が村の先生に尋ねますと、「妙なことを云ふ人だ、公園の花をとらない事などは當り前の事だ」と云はれて甚だ恥ぢ入つたから日本の子供にも小さい時分からこの氣持を養つてくれ、ますます發展させてくれと申されました。自分で手をかけて栽培りますと小き苗一本も惜しくなりまゝす。幼稚園へ迎へにまゐります子供やあぢいさんがちよつと花木を折りますのを見つけると「先生あの人を叱つて下さい」と申します。折角子供の丹精したものをちぎつて負ぶつてゐる子に持たせるのは全く培養に努力せんからです。「あの方は幼稚園へ來なかつたから植物を可愛がる事も知らない人でせう」と言つておきます。

一たいに斯ういふものは先生が興味を持たなければ子供は持ちません。子供の觀察は興味を持ちさへすれば出來ます。私の幼稚園も田舎へは遠くて五里程もかゝりますが時々採收に出かけます。翌日は山程持ちよります。みんな興味を持ちます。親達も私の教へ子が過半ですから「日曜日なんかには郊外に連れてお出でなさい」と私も申し

ますので、父兄の方でもよく出掛けたからとて自然物を持つて來ます。日曜日の翌日は處置し切れぬ程一ぱい採つたのが集りますがこれは處置しなければなりません。又方々から送つても下さいませ。こんなにみんなが熱心なのも全く皆さんが自然物に興味を持つて居つた賜で御座います。一生懸命になると同情者は出るものですと長年月の経験から申し上げます。出來ないと言つては仕様がありません。思ひ立つたら今日から爲るに限りませう。

私もしまひ程貪乏な幼稚園に行きました。經費も他に比べて一等尠かつたでせう。丁度幼稚園の向に大きな梧桐の木があつて實がバラ／＼落ちるのでふとこれを利用したらばと思ひついて、竹桿を持つて來て實を落しました。これからいろ／＼の物をつくりましたが、みな子供からヒントを與へられました。この桐の實が自然物利用の手始めでございました。先日こちらの學校で戴きました桐の實や、近所の普新をしてゐる所からかんな屑を女中にもらつて來させたので少し許り作つてまゐりました。不得要領の話をなが／＼と申上げて御勘辨下さいませ。